

世界史 大阪大学 外国語学部 (前期) 1/3

(I)

問1	温暖化によって植生や動物の生態が変わると、狩猟・採集・漁撈による食糧の確保が困難になり、人類は狩猟・採集の獲得経済から農耕・牧畜による生産経済へと移行した。農耕・牧畜に適した道具として磨製石器や土器が作られ、新石器時代が始まった。生産経済の進展によって定住化が進み、人口増大が促されて、文明誕生の基礎が築かれた。(156字)

問2	鉄製農具の使用と牛耕が始まり、農業生産力が高まった。これに伴い家族単位の農業経営が可能になって氏族共同体の解体が進み、余剰生産物を取引することで商人や手工業者が活躍するようになり、青銅貨幣の流通も盛んになった。鉄器の使用によって森林伐採が進んだ結果、森林面積が大きく減少して華北の気候は乾燥化に向かった。(152字)

世界史 大阪大学 外国語学部 (前期) 2/3

(II)

問1	ロシア地域にルーシがノヴゴロド国，次いでキエフ公国を，北フランスにはノルマンディー公国が建てられた。イングランドには，デーン朝，次いでノルマン朝が成立した。南イタリアには，両シチリア王国が建設された。アイスランドを経て，北米大陸に到達した一派もみられた。ノルマン人から生命財産を守るため，西欧で封建制度の形成が進んだ。(159字)

問2	十字軍が展開される中，キリスト教勢力とイスラーム勢力との接触が深まった。シチリア島のパレルモなどで，アリストテレスに代表されるギリシアの古典が，アラビア語からラテン語へと翻訳された。それに刺激されて，ヨーロッパではスコラ学が発展し，医学などの自然科学も成長した。また学問の発展を背景に，各地に大学が成立した。(154字)

問3	オスマン帝国は，ユダヤ教徒にミッレトと呼ばれる宗教共同体を形成させ，ジズヤの支払を条件に自治を認めた。ユダヤ教徒は商業などで活躍し，帝国の繁栄を支えた。(76字)

世界史 大阪大学 外国語学部 (前期) 3/3

(Ⅲ)

問1	ナポレオン1世は、イギリスを中心とする対仏大同盟との戦いに勝利を重ね、イギリスとロシアを除くヨーロッパの大部分に勢力を拡大した。フランス支配下の各地ではフランス革命の自由主義やナショナリズムなどの思想が広まったが、その影響を受けてフランス支配に対する抵抗運動が起こり、ナポレオンの失脚に大きな影響を与えた。(153字)

問2	ウ
----	---

問3	朝鮮戦争で、アメリカは大韓民国を支援して北朝鮮と戦う中で、日本に対する方針を転換し、占領をやめてサンフランシスコ平和条約で独立を認め、同時に日米安全保障条約を結んで、日本を社会主義陣営への防壁とするため、米軍基地の設置を認めさせた。また、太平洋安全保障条約を結んでオーストラリア・ニュージーランドと提携した。(154字)